

令和7年度 教育充実計画

蓮池幼稚園

本園では、幼稚園教育の基本を踏まえ、幼児期にふさわしい生活や遊びを展開しながら豊かな心情や物事に主体的に取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度や生活習慣など「生きる力」の基礎を育む教育の推進に努め、より一層の教育充実を目指す。

I ○本町の幼稚園教育目標

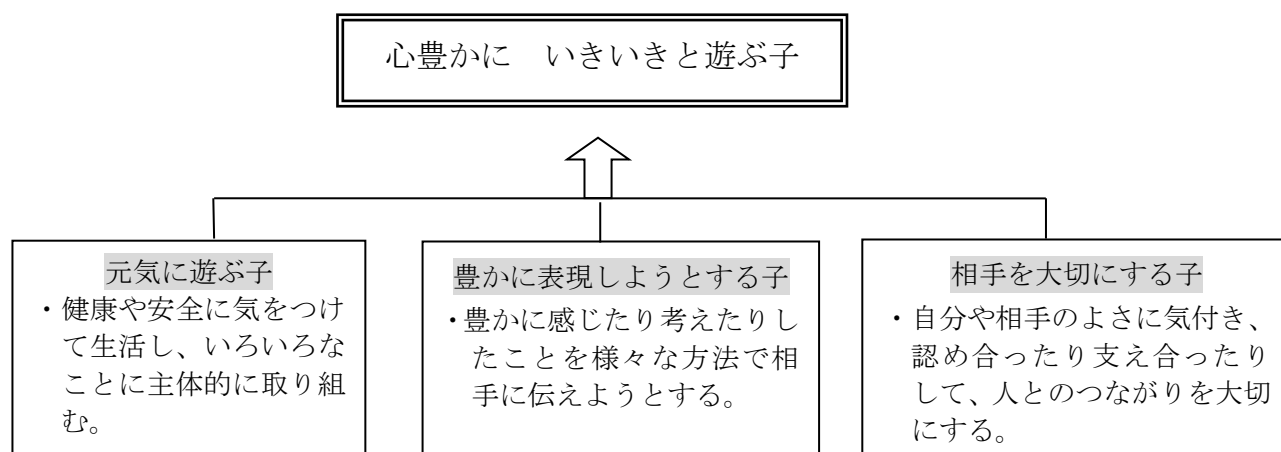
生きる力の基礎を育む

—幼稚園・家庭・地域の連続した生活の中で—

○本園の教育目標

主体的に遊ぶこどもを目指して、生きる力の基礎を育む

II めざす幼児像



III 本年度の重点課題

- 1 環境を工夫し、魅力ある園づくりを進める。
- 2 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度の定着を図る。
- 3 様々な人と関わり、共感しあう活動を通して、人への愛情や信頼感を育て豊かな人間関係の基盤づくりを進める。
- 4 様々な体験を通して、豊かな心を育み、健康な体づくりに努める。
- 5 教師としての専門性を磨き、保護者や地域と連携しながら指導の充実に努める。
- 6 こども園、保育園、子育て支援センターとの交流を通して、互いの保育理解に努めて教育の充実を図る。
- 7 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努める。

IV 達成のための方策

1 環境を工夫し、魅力ある園づくりを進める。

- (1) 心安らぐ、あたたかい雰囲気のある園づくりに努める。
 - ① 一人一人が安定して生活できるよう、心の居場所づくりに努める。
 - ② 一人一人の思いを受け止め、よさや頑張りを認めていく。
- (2) 身近な自然との触れ合いを通して、豊かな感性や表現力を育む。
 - ① 身近な自然環境に触れ、四季の美しさや変化などを感じられるようにする。
 - ② 生き物を身近に見たり触ったりして、心触れ合う場を大切にする。
 - ③ 動植物の世話を通して、命の大切さを感じられるようにする。
 - ④ 幼児の驚きや感動などをしっかり受け止め、共感する。
- (3) 幼児が自分なりのめあてをもち、意欲的に取り組める環境を整備する。
 - ① 発達段階を考慮し、幼児が興味関心をもって取り組める環境を構成する。
 - ② 主体的、意欲的に取り組めるよう環境の再構成をしていく。
 - ③ 様々な直接体験ができる場を大切にする。

2 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度の定着を図る。

- (1) 毎日の生活や様々な人と交流する中で、進んであいさつができるようにする。
- (2) 3年間の発達を見通し職員で共通理解しながら、身の回りの始末や片付け、食事の仕方などがしっかり身に付くよう指導していく。
- (3) 皆で考える場を大切にしながら、人の話を聞く時や公共の場での態度など、その場に応じた適切な行動ができるように指導する。
- (4) 生活のリズムや食事の習慣などが身に付くよう、家庭との連携を図る。

3 様々な人と関わり、共感しあう活動を通して、人への愛情や信頼感を育て豊かな人間関係の基盤づくりを進める。

- (1) 一緒に生活する中で、相手の思いに気付き、思いやりの気持ちを育む。
- (2) 友達と楽しさを共有し、新しいことや困難なことでも一緒にやり遂げる満足感や達成感が味わえるようにする。
- (3) 異年齢児、絵本ボランティア、小中学生、地域の方など、様々な人と交流する中で、温かさを感じ、人と関わる力を育む。
- (4) 集団生活の中では、ルールがあることや自分のしたことには責任があることに気付き、守ろうとする気持ちを育む。

4 様々な体験を通して、豊かな心を育み、健康な体づくりに努める。

- (1) 絵本の貸し出しや読み聞かせの機会を多くもち、物語の世界に夢を広げ想像する楽しさが感じられるようにする。
- (2) 日本の伝統を大切にしながら、国際的な言葉や文化に触れる機会をもつ。
- (3) 戸外遊びを通して、体を動かす楽しさを感じながら基礎的な体力づくりに努める。
- (4) 野菜を植えたり育てたりして、食に対する関心がもてるようにする。

- (5) 日常生活の中で、身近な環境について考える機会をもち、物を大切にしようとする心を育む。

5 教師としての専門性を磨き、保護者や地域と連携しながら指導の充実に努める。

- (1) 教師としての資質向上を図る。
- ① 幼児の姿や発達段階からできるだけきめ細やかな指導計画(長期・短期)を作成し、ねらいや内容を共通理解する。
 - ② 全職員が幼児に関わり、情報交換しながら幼児理解を深め、指導の充実に努める。
 - ③ 幼児の育ちや遊びの様子から日々の実践を点検、評価し、計画の見直しや保育の構想に努め、実践していく力をつける。
 - ④ 教師間でのカンファレンスの場を設定し、保育内容の充実と指導力向上を目指す。
 - ⑤ 課題をもって取り組み、自己評価、学校関係者評価を指導に活かしていく。
 - ⑥ 互いの努力を認め合い、励まし合いながらあたたかい人間関係をつくる。
- (2) 園内研修をしたり研修に参加したりして、学ぶ機会をもち視野を広げる。
- ① 事例を出し合い、意見を聞いて事後指導に活かしていく。
 - ② 他の教師からの事例を自分への課題として捉え、考え方を整理したり視野を広げたりできる機会として主体的に考える。
- (3) 特別支援教育の充実に努める。
- ① 支援を必要とする幼児の発達の特性を理解し、支援計画や指導計画を作成する。
 - ② 保護者や専門機関との連携を図る。
 - ③ 様々な機会を通して、周りの幼児や保護者の理解を深めていく。

6 小学校、こども園、保育園、子育て支援センターなど関連機関との交流を通して、互いの保育理解に努めて教育の充実に努める。

- (1) 小学校や関連諸機関との連携を推進し、育ちの連続性を考える。
- (2) 幼小接続を進め、幼児にとっての滑らかな育ちの接続性を大切に考える。
- (3) 3歳児健診で入園前の育ちや生活を知り、指導に活かす。
- (4) 5歳児発達相談を保育に活かし、関連諸機関との連携を深めていく。
- (5) こども園、保育園、子育て支援センターとの交流を通して互いの保育理解に努め教育の充実に努める。

7 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努める。

- (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、幼児の日々の考察、読み取りをし、環境、援助を考える。
- (2) 接続期のカリキュラムの見直しをし、小学校の教職員と就学に向けて、互いの研修や授業参観、保育参観を通して円滑に接続できるように考えていく。